

河内木綿の魅力伝える場の計画

板東 いろは

[指導教員: 武庫川女子大学教授 黒田 智子]

キーワード: 地域活性, 高架下, 藍染

1. 設計の背景と目的

私の地元である大阪府八尾市には、河内木綿という伝統的な名産物がある。江戸時代から明治時代にかけて河内木綿の名は全国的に知られており、「河内ブランド」として有名であった。その河内木綿を復元させるため、現在八尾市には、NPO法人による「河内木綿藍染保存会」が存在する。しかし、八尾市のまちなみセンターを訪れた際、河内木綿藍染保存会について、「若者からの関心が少なく、今後の継承に不安を感じている」という話を伺った。このことから、伝統的な河内木綿の復元活動を今後も続けていくには、若者からの関心が強く求められていると考えた。

訪れるだけで若者の河内木綿に対する関心を惹きつけられるような場を提案し、今後の八尾市に「河内ブランド」を取り戻す1つのきっかけになることを目指す。

2. 河内木綿について

江戸時代から明治時代のはじめにかけて、河内地方で栽培された綿から糸を紡いで手織りされた木綿のことである。

河内木綿の栽培がますます盛んになったのは、大和川の付け替え工事が大きく影響している。旧河川敷となった場所は水田に不向きとされ、多くが畑として生まれ変わり、村の耕地の7割に綿が植え付けられていたと言われている。

3. 計画地について

近畿自動車道の高架下を計画地とする。道路や歩道に囲まれており、車や自転車だけでなく徒歩で通過する人も多い。

現在この高架下には実際に河内木綿の畑が隅に小さく存在しているが、空きスペースが多く、高架下の条件を上手く活用できていないことが問題であると考え、計画地とした。



図1 計画地の位置



図2 南側から見た計画地

4. 設計の概要

コンセプトは、「様々な手段で河内木綿を感じてもらえる空間」である。自動車、自転車、徒歩など人通りが多い事を活かし、周りを通る人の印象にも残るような構成を提案

する。

4-1 全体の構成

- ・資料館エリア 河内木綿の文化・歴史を具体的に学ぶことができるよう、資料を展示する場所を設けた。
- ・ドリンク売り場 若者をターゲットにしているため、親しめるロゴや色相のカップホルダー付きのドリンクの販売を行う。
- ・道具の展示 機織りの道具を外に展示する。
- ・小屋 実際の河内木綿を眺めながらドリンクを飲んだり雑談したりできるような小屋を設置した。

4-2 河内木綿の表現方法

大和川との関係性を知ってもらえるよう、元々ある水路の幅を広げて川に見立て、江戸時代の木綿売買をしている家の構造をイメージした流れを構成した。また、文様を展示物だけでなく、庭の敷石やカップホルダーなど、様々な場面に表現した。



図3 高安の里の木綿売買 (河内名所図会より)

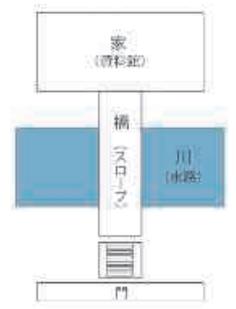


図4 イメージ

4-3 資料館の誘導

資料館の入り口をスロープにして室内の誘導へと繋げることで、自然と全ての資料に目を通してもらいやすくしている。(図6)

4-4 小屋

小屋は東側に位置し、午前中に入ってくる日光を活かした形態になっている。(図7)

5. ロゴとカップホルダー

綿花が綺麗な藍色に染まる事をイメージした。(図11)

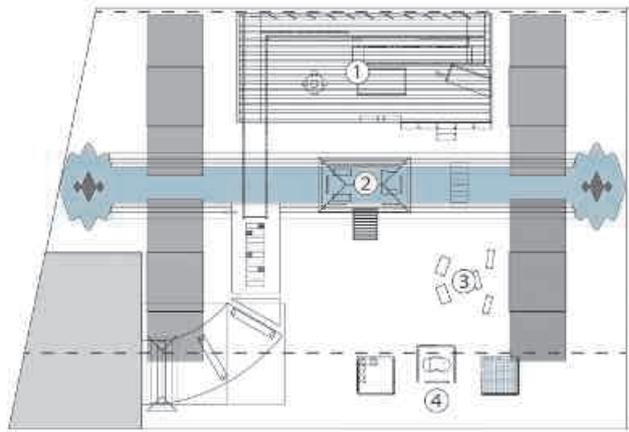


図5 平面図

- ①資料館
- ②ドリンク売り場
- ③道具の展示
- ④河内木綿を見ながらドリンクを楽しむ小屋

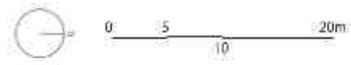


図6 資料館



図7 門からの誘導



図8 西側の車道から見た資料館



図9 大和川をイメージした水路

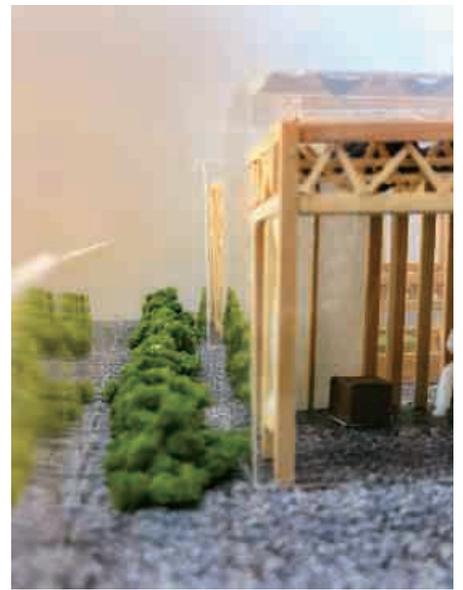


図10 小屋の前の河内木綿



A ロゴ



B カップホルダー

図11 若者をターゲットにしたカップホルダー